

フェロモンを使ったハスモンヨトウ防除!

フェロディン[®]SL

成分 リトルA5mg (リトルA 4.55mg, リトルB 0.45mg)

(リトルA剤)

ハスモンヨトウ 加害作物栽培地帯に

(いも類、豆類、あぶらな科野菜、なす科野菜、レタス、れんこん、
にんじん、ねぎ類、いちご、たばこ、まめ科牧草など)

特 長

ハスモンヨトウのオス成虫を広域的に大量に
誘殺するので…

- 次世代幼虫の発生密度が低下します。
- 薬剤の散布回数を減らせます。
- 薬剤による適期防除ができます。

設置作業が簡単で労力がかかりません。

ハスモンヨトウのメス成虫が出す性フェロモン
を基に製剤化したものです。

- 天敵など他の生物にはほとんど影響しません。
- 薬剤抵抗性が発現する心配はありません。

経済的です。



ハスモンヨトウ成虫(♂)



フェロディンSLとファネルトラップ

ハスモンヨトウによる被害



ねぎ



だいず



いちご



さといも



レタス



なす

フェロディン[®]SL (リトルア剤) の使用方法

フェロディンは住友化学(株)の登録商標

特
長

1 広範囲に使用する

防除対象地域はハスモンヨトウ加害作物栽培圃場を含むできるだけ広範な地域(10ha以上)とし、生産団地を中心に共同で使用することが望めます。

2 早い時期から使用する

被害を軽減するためには、成虫の密度が低い発生初期(4~5月)から終期まで連続的に使用することをおすすめします。

3 トラップの使用量

トラップの標準設置量は、1ha当り2~4台です。圃場の周辺部に50~100mの間隔で設置します(本剤の誘引範囲は半径60m前後です)。

対象地域の条件によって、適宜増減してください。

4 設置方法

トラップは風通しの良い場所に、地上1~1.5mの高さ(圃場内では作物より高い位置)に固定します。

なお、本剤は1.5~2ヶ月経つと誘引効果が低下しますので、新しいものと交換してください。

5 効果の評価

本剤によるハスモンヨトウの防除は、薬剤防除と違って速効的ではありません。

各種の手段を上手に組み合わせて総合的に防除することが重要です。

6 施設栽培での使用方法

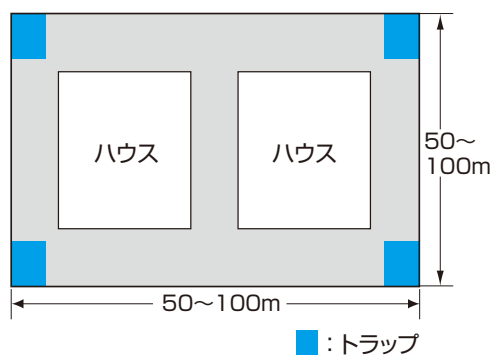
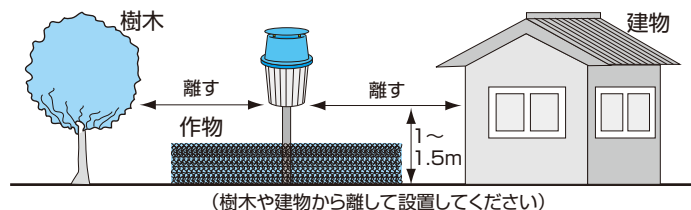
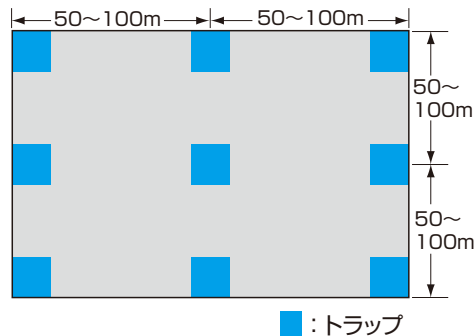
夜間サイドが開放されている時は、ハウス外の周辺に50~100mの間隔でトラップを設置してください。夜間サイドが閉じられている時は、ハウス内の中央に設置してください。

7 管理

トラップ設置中はハスモンヨトウ発生密度に応じて巡回し、トラップが捕殺された成虫でいっぱいになる前に処理してください。

8 貯蔵

直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密封して保管してください。



適用害虫と使用方法

※表中に記載のある作物をはじめ、ハスモンヨトウが加害する全ての作物に使えます。

適用場所(作物)	使用目的	適用害虫	1ha当り使用量	使用時期	使用方法
ハスモンヨトウ 加害作物栽培地帯 (いも類、豆類、 なす科野菜、 あぶらな科野菜、 レタス、れんこん、 にんじん、ねぎ類、 いちご、たばこ、 まめ科牧草 など※)	誘 引	ハスモンヨトウ 雄成虫	2~4個/ha	成虫発生初期 から 発生終期まで	本剤をトラップ 1台当り1個を取 付けて配置する。 取付けた薬剤は 1.5~2ヶ月間隔 で更新する。

○アルミ箔を開封して放置すると薬剤が揮散して効果が低下してしまうので、必ず使用直前に必要個数だけ開封してください。

○本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

30H1A18F04:Z

2018年1月作成(全農教)

大地のめぐみ、まっすぐ人へ
SCC GROUP

住友化学

〒104-8260 東京都中央区新川12丁目27番1号

お客様相談室 ☎ 0570-058-669

農業支援サイト 農力 <https://www.i-nouryoku.com>

